

2023 年度入学試験 国語 第 2 回

問 題		得点率 (%)	問 題		得点率 (%)
<b>1</b>	問1	54.3	<b>2</b>	問1(1)	86.7
	問2	71.0		問1(2)	95.1
	問3	84.0		問1(3)	78.1
	問4	87.8		問2	88.0
	問5	67.6		問3	93.5
	問6	65.8		問4	75.5
	問7	91.7		問5	63.9
	問8	84.3		問6	81.3
	問9	86.3		問7	72.1

合格者最高点 88

合格者最低点 22

① 出典：山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか？ 相対主義と普遍主義の問題』

問一 理由説明問題です。まず 1行目～3行目「多くの社会ではルールを正当化する手続きが定められ…。この手続きに従って…『正しい』のだと…。そして、その手続きはそれぞれの社会や国ごとに定められており、…」と書かれています。また 6行目に「社会や国ごとに異なる」とあり、そこから「ルールを正当化する手続きに従って定められた『正しさ』は社会や国により異なる」という内容が導かれます。その上で 7行目、「そうした差異も、理解不能なほどに多様なものではないのが通常です」とありますので、これらをまとめて記述します。傍線部の直前が「例えば」なので、前段落の内容が傍線部の根拠となりますが、そこを書いていない答案が多数見受けられました。また、「異なる」という点と「理解不能なほどに多様なものではない」という点を合わせて記述できた答案もあまり多くはありませんでした。

問二 空欄補充問題です。「正しさは社会や国により異なる」と考えること以上に、もっと考えるべき内容が入ります。その具体例が 25行目～40行目です。そして 41行目～42行目「これらの法律は『ルールを正当化する手続きの正しさ』を満たしておらず、やはり不正だったというべきでしょう。」とまとめています。したがって、空欄には「ルールを正当化する手続きの正しさ」が入ります。設問要求から、引用「」は字数に含まず、「」を外して解答します。よくできていました。

問三 内容説明問題です。「正しさ」がどのように決まるかを問うものです。正解はイです。「正しさ」は、39行目の内容から、「当事者」が関わり、話し合いに基づいて合意し、成立するという事です。アは「文化の特徴を…、お互いに尊重しながら」、ウは「大多数の人たちが合意してきた…自分自身の行動や生活態度」、がそれぞれ誤りです。エは「代表者たちの意志に基づくか」と「権力者による強制か」の二者択一にしているのが誤りです。よくできていました。

問四 Aは例示の「たとえば」、Bは要約の「つまり」、Cは譲歩の「もちろん」、Dは添加の「それに」が、それぞれ入りません。よくできていました。

問五 「あからさまに暴力的な手続き」について、簡潔に述べる問題です。57行目～58行目から、主語(誰が)は「権力者」です。「どうすることか」については、「法律を一方向的に定める」「それを暴力で強制する」をまとめて書きます。文末「～こと。」に注意しましょう。全体的によく書けていましたが、「暴力」が抜けている答案も多く見受けられました。

問六 「ある法律が含んでいる暴力」の説明問題です。73行目～74行目「自分自身では気づけなくても、それに苦しめられてい

る人の声を聞いて…」とあるので、「苦しめられている」状況があることがわかります。そしてこれは、65行目「代表されていない立場の人たちも多数います」の箇所や、69行目「合意していないままに従わされる人たち」の箇所を指していることもわかります。つまり、「議会で定められた法律」が「代表されていない立場の人たち」や「合意していないままに従わされる人たち」を苦しめている、となり、ここをまとめて書きます。傍線部の「ある法律」とは法律一般のことなのですが、直前の段落内容から「強行採決によって可決された法律」と限定してしまった答案がかなり多く見られました。

問七 「分断された社会」にしないために私たちがすべきことの説明問題です。106行目～110行目の内容から、「『人それぞれ』という点で済ませる」という点を筆者は否定し、103行目「お互いに納得のできる合意点を作り上げていく」、105行目「より正しい正しさを実現するよう努力していく」、という点を述べています。以上をまとめて書きます。「～済ませるのではなく」（否定構文）、「合意点を作り上げ」、「より正しい正しさを実現」、の三つのポイントをふまえて書けた答案は少なかったようです。

問八 内容一致問題です。正解はウです。アは「断念させる方向へ導かれてしまう」、イ「納得できないものであれば、従わなくてよい」、エ「…真理をふまえたもので、十分説得力がある」、がそれぞれ誤りです。よくできていました。

## 2 出典：辻みゆき『家族セッション』

問一 (一)は、「姫乃」の、「菜種」に対する思いを問うものです。14行目～25行目と、42行目～65行目の内容から、「姫乃」の家では「菜種」が気に入られていること、そして「姫乃」はそのことに対して嫉妬し、不満に思っています。だから「菜種ってずるい」と言うのです。この一連の思いと発言をまとめて記述します。比較的よく書けていたのですが、「点数稼ぎばかりする」という点が抜けて、「点数がいい」「お手伝いをする」「何でもできる」という「菜種」の行動や能力そのものを指摘するだけの答案が目立ちました。(二)は、「菜種」の、「千鈴」に対する思いを問うものです。92行目～109行目の内容から、「菜種」は「一条家」で何もせず迷惑ばかりかけているのにやさしくしてもらっている「千鈴」を「ずるい」と思っています。この流れをまとめて記述します。「千鈴」は何もできていない、という点はよく書けていたのですが、一条家の家族にやさしくされる、大地とも仲よくしている、という点を明確に書いている答案は多くありませんでした。(三)は、「千鈴」の、「姫乃」への思いを問うものです。124行目～157行目の内容から判断します。「千鈴」は「桜木家」で父と母に優しくしてもらいながら見下している「姫乃」に不満を持っており、口論の際に出てきた「嫉妬」という言葉をそのまま「姫乃」にぶつけ、「門倉家の娘は菜種だ」とヒロ子が言ったことに関する「菜種」への嫉妬だと言ってしまう。そうして「千鈴」は「姫乃」を打ち負かしてしまいます。この一連の流れをまとめて書きます。設問に「どのような思いをどのように言いましたか」とあるので、「姫乃に対して憤る思いを」、「嫉妬によるものだと言い、打ち負かした」などの表現があるとよいでしょう。「桜木家で優しくされながら、父と母を見下す」、「不満・憤り」の二点はよく書けていました。しかし、「千鈴」が「姫乃」を言い負かす発言、すなわち「菜種」が門倉の娘だと門倉家から言われたことへの「菜種」に対する嫉妬だということまで書けていた答案は多くありませんでした。

問二 語句問題です。一「耳が痛い」は、「弱点を指摘されてつらい」、二「寝耳に水」は、「不意の出来事におどろく」、三「産声を上げる」は、「新しい物事が作り出される」、四「猫なで声」は、人の機嫌を取ろうとする言い方、五「音を上げる」は、「困難な状況に耐えられない」が、それぞれ入ります。よくできていました。

問三 「千鈴」の心情を問うものです。92行目～121行目の内容から、「千鈴」は何もできずにただ「一条家」の家族と仲良く

しているだけなのに、「菜種」からずるいと言われて困惑していることがわかります。正解はウです。ア「ずるいと言われても気にせずやってきた」、イ「…楽しいとは感じておらず」、「…褒めてもらいたいのに、…苛立ちを…」が、それぞれ誤りです。

問四 「千鈴」に言い負かされた「姫乃」の、「菜種」への心情を問うものです。164行目～174行目の内容から判断します。

「菜種」は「門倉のパパとママ」は「姫乃」を大切に思っているとはっきり言います。「姫乃」は、171行目～173行目の「最初は驚いて…、いったん安心したような…、不安そうな目で…」、174行目「…うちの子になりたくなかった？」と言います。ここをもとに選択肢から正解を選びます。正解はエです。ア「菜種の悲しげな表情から『勝った』と思い安心…」、イ「菜種は一条家で暮らすことが本当に嫌になった…」、ウ「…菜種にはかなわない…菜種には逆らえないと不安に…」が、それぞれ誤りです。よくできていました。

問五 Aは「ちらり、ちらりと」、Bは「じりじりと」、C「ありありと」、D「ちょこちょこ」がそれぞれ入ります。

問六 蟬の描写が作品にもたらす効果としてふさわしくないものを選びます。正解はイです。イだけ誤った説明です。94行目の

「蟬時雨の中の…」は、「菜種」の発する言葉に場の雰囲気が変わる状況を指しますが、「…混乱した状況の中で、心から納得する千鈴の様子」というのが誤りです。よくできていました。

問七 本文の感想を述べる四人の中で、本文の内容や特徴と合わない発言をしているものを選ぶ問題です。正解はエです。エ

(Dさん)の「それぞれの視点から、三者三様の描き方」というのが誤りです。本文は「千鈴」が主人公です。90行目や、155行目～158行目から、「千鈴」だけ内面が語られています。従って、「それぞれの視点から」ではありません。よくできていました。